

「座間」創意工夫で 身の丈にあったまちづくり

座間市長(神奈川県) **遠藤三紀夫**
Mikio Endo



わがまち座間

座間市は神奈川県ほぼ中央に位置し、東京から40km、横浜から20kmに位置する市域面積17・57km²の小さなまちです。その位置から高度経済成長期には産業立地と住宅開発が進み、純農村地域から急速に都市化が進み、現在居住人口約13万人、人口密度約7300人/km²に至っています。在日米陸軍司令部と陸上自衛隊が共同使用するキャンプ座間・座間駐屯地が所在する「基地のまち」として、そして日産自動車座間事業所をはじめとする製造業の立地する「モノ作りのまち」でもあり



13m四方100畳敷きの「大風」掲揚シーン

ます。その一方、相模川河床面にひろがる西部の水田地帯、中央を南北に横たわる座間丘陵、相模原台地上地域と地形は変化に富み豊かな自然も残っています。地形的な特徴から良質で豊富な地下水が湧出し、現在でもその恵みを活用した独自の水道事業を営み市民に美味しい「ごまみず」も供給しています。

伝統行事も数々あります。その典型が毎年5月「端午の節句」に開催される「大風まつり」。これは江戸時代から200年以上の歴史を誇ります。子どもたちの健やかな成長を願う「13m四方100畳敷きの大風」を掲揚するシーンは豪快で、大空に



55万本が咲き誇るひまわり畑

浮かぶその姿は壮観の一語です。また夏休み期間中に開催される「ひまわりまつり」が大好評です。遊休農地の荒廃化対策として農業者有志で始められた「市の花ひまわり」植栽事業により5・5haの農地に55万本の「ひまわり」が咲きそろう、その景観は今では全国的に知名度が上がり、近年では20万人を超える人たちの来訪がある一大まちおこしイベントに進化してきています。

創意工夫による政策の一例 キャンプ座間返還地の病院誘致

市長として10年の節目を過ぎましたが、この間取り組んだ最も大きな事業が在日米陸軍キャンプ座間部分返還の推進と返還後の利活用です。平成21年秋に示された5・4haの一部返還は平成28年2月末日に実現しましたが、この用地の活用は市民の大きな期待であり関心事。しかし国から払い下げを受けるとすれば多額の資金が必要でした。そこでその財政負担を極小にしつつ市民の基地負担軽減に資する活用を図るべくさまざまな工夫を凝らしました。

返還地活用のひとつが民間病院の誘致開院でした。脆弱な救急対応力の中、新たな総合病院は市民の悲願。そこで病院誘致を返還予定地の一部に位置付けることとしたのです。これについては、平成22年6月に国より示された「新成長戦略における国



在日米陸軍軍楽隊クリスマスコンサートのサプライズゲストとして歌う筆者(上)
同コンサートで指揮を振る筆者(下)

有財産の有効活用」を適用していただきま
した。結果、用地の払い下げを受けること
なく市が50年の定期借地として借り受け、
誘致した民間医療機関に転貸するという
スキームで事業化が叶い、最大の課題で
あった多額の財政負担を大幅に軽減でき
たのです。また建設工事についても返還実
現後の着手が一般的など、現地米軍の
理解と国の協力により「返還前の共同使用
による工事着手」を認めていただき、返還
直後に病院開院が叶い多くの市民に喜ん
でいただきました。

マイプライベート 読書こそ源泉 (乱読、積んどく、読んどく)

まずは読書。「乱読、積んどく、読んどく」
がモットー。幼いころから読書が大好き。
自宅書棚は本で溢れかえっています。読書
を重ね知識を広げ「レイヤーを重ねる中で
そのメッシュにかかる新たなテーマそれが
知的好奇心を刺激し新たな読書につながる」
ことこそ市政を預かる身としてブレず
に筋を通して思考し決断をする大きな源泉
だと強く感ずる毎日です。

次は釣りと釣魚
料理です。市長就
任前はよく沖釣り
に出掛けました。
左党な私にとって
自身で釣り上げた
魚こそ宝。自ら包
丁をふるって釣魚
をさばきそれを姿
造りや菊造りに。
それを家族や友人
に振る舞い一献か
わすのは至高の
時。今でも折を見
て市場で調達し包
丁さばきを試して
います。
もうひとつは高

校大学在学時に親しんだ音楽、合唱や声
楽。今まさにこれが生きています。かつて
はキャンパス座間内で開催されていた在日米
陸軍軍楽隊クリスマスコンサート。私の提
案に应运えていただき6年前から市民文化会
館で開催され、市民も聴衆に加わり年々盛
況の度が増しています。私は毎年そのス
テージにサプライズゲストとして指揮者、
歌手として出演。日米友好、相互理解の架
け橋の一助となれて本望の一語です。

座間市長として現在3期目、10年の節目
が過ぎました。リーマンショックに始ま
り、就任以来、多様かつ波乱万丈の経験を
させていただきました。市の将来像を編ん
だ総合計画の策定をはじめとした数々の政
策立案と執行、特に少子高齢化の進行を真
正面から受けとめるための政策、頻発する
自然災害等に対応するための危機管理体制
の強化、在日米陸軍司令部が所在する基礎
自治体としての対応等、次から次へと目の
前に現れる課題解決に肅々果敢に全力で対
応してきたと振り返っております。

ベッドタウン固有の課題、移り住んでき
ていただいた市民に市への帰属意識を持っ
ていただくことは今後のまちづくりの大切
な基盤です。職員自ら市の総合力の底上げ
たるシティプロモーションをリードし「小
さくとも身の丈に合った心地よいまち座
間」を作り上げていきたいとあらためて決
意しております。